

昭和17年11月1日（日）

曇り時々陽射しあり。久子来たり。和博を連れ、仲人の金谷の久垣某に行き、淳坊を和博をして守して貰ふ量見なりしが、生憎相手の男が未だ八幡より来ぬとかにて、久子帰り来る。淳坊其の間昼寝し居り、手は要せざりし。恰度其の頃降雨の兆しあり。乾し物取入ることとなり、和博を帰宅せしめ取入れらしめんとす。甘藷の煮えるを目前に販るを欲せず。和博泣く。林清治氏来たり。先日陥落の机と机との中間台を修繕し下さる。後30枚の債券持参、保管依頼。井上吉郎と云ふ者、22円の特別措置証書持参。15円立替引換え交付す。原口屋に下宿、扇城自動車に通勤の者なるが、肺炎にて免職となれる由。夜、隣保班集会ミワさん出席。森田さん父親、9時の汽車にて来著。同時刻、相手の男と云ふ者、見合いを済ませて帰幡の序でに立寄る。格段話もしなかつたので人物評はできぬ。久子が来た際、巖から聞いた不可解の点を質問したら、全然久子は否認した。午後4時公園地に坊を連れて途中、貴船神社構内で少時遊ばせ、公園地でも少時遊ばす積もりなりしも、風寒く陽没して其の余裕なき為、裏通りから帰る。久子金谷に行き居る間、不思議に淳坊睡り続けに寐て居る。

昭和17年11月2日（月）

曇りがち。今日より九時から四時。乃ち水曜は五時迄、土曜は三時迄、他は四時迄。行政簡素化に伴ふ整理発表あり。窓口混雑、小包も電報も多かりし。森田玉五郎氏、学校へ行かれ夕方販らる。三千五百円合同へ国債持行き、代金は銀行より小切手にて受取り来らる。隣保班への分も、百五十円を残して現金の交付を受く。夕方

坊を負うて少時外出。風寒く陽入りては、一層戸外は冷たし。湯に行かる。貢氏より銀ブラの写真を送り越さる。

昭和17年11月3日（火）

明治節。快晴。珍しき穏やかな天気。伊勢さん代表して耶馬溪遠足へ出発。豊後町局長、及び大貞局長同行の筈。森田さんも羅漢寺まで行く予定にて準備さる。妹君、式の終了想定より遅れて11時になる。少し遅くなったので羅漢寺行き中止。恰度此日、夕飯に味附けを造ろうと云はる。偶然森田氏父親の送別会となり、御飯を四人前おひつにて遣る。坊や2時頃貴船神社に連れ行き、一時間近く遊ばし帰る。午後7時30分より、二階に上がり玉五郎氏と対談す。10時近く辞去す。ういろう饅頭と蒲鉾を土産に贈る。伊勢さん6時過ぎ飯局。久子蒸しパン造り持来る。重曹入り少々苦し。

昭和17年11月4日（水）

曇天。8時の汽車にて玉五郎氏退去。昨同氏より坊の為、猫張り子を購め下さる。甘藷配給あり。巖より道子に20円送りたる由にて、返すべきか否かを余に照会越せり。返事やる。朝、前夜の味飯頂き、夕食に甘藷頂く。郵便為替共、窓口各10円不足。切手請求受取共、余行く。

昭和17年11月5日（木）

曇りがちの天候。森田玉五郎氏より葉書。安着通知。道子より年金戸籍抄本は市役所で一時間も待たされて、漸く順番が来て、それは原籍地へやるのだと云ふので、戻って来たと云ふ。原籍地なら、そちらからやつて呉れとあり発送。電会社の封筒の中に多分蔵へ込んであると思う

から、調べて呉れと云って置きぬ。まだ配当金も受け取って居らぬ。その受領証も同封してあると思ふ。あつたら廻して呉れとも云ひやつた。夕方小宮豊隆氏（東北大学教授）への菓子出来、荷造りに一時間近く要し9時までかかる。明朝発送の筈。坊を連れ3時より貴船神社に遊び、4時過ぎ帰る。為替欠損は紙幣の数え違い。郵便は40銭切手未交付に対し、10枚受取りし如く記載あり。4円の補填を得たるも、猶6円の不足は釣り過当に遣りしらし。和博悦子、糯米きなこを送り届く。ミワさん外出。母堂蜜柑を両児に遣らる。此の外パンも持来る。夕食時パン頂く。甘藷入りのもの。

昭和17年11月6日（金）

曇天。終日陽光を不見。「まこと」誌来る。うす寒、外出せず。坊の腫れ物癒り初む、余の腫れ物も同断。耶馬溪焼き、坊棄てて毀損せしむ。朝起きるとパンを食べ、甘藷の如きは、櫃の中より自由に取出し勝手に食ふ。昨、風呂に行けるようなるも、此日も行って貰ふ。林檎の汁をやる。澄子よりミシンの件、反問越せり。

昭和17年11月7日（土）

晴天、風寒し。陽向（ひなた）は暖かく額に汗する由。貯金団体調査、余衝（しょう）に当たる。此夜発送。午前10時、下毛南部部会長、山移局長臨局。謄写版持来らる。栄町にやる分らし。午前中、坊公園にミワさん連れ遊ばる。愛国パン多数求め来らる。何回も行列に加わり求められたるらし。一回の入手四つ。清浦奎吾伯、93にて入寂。夕飯にて甘藷竭（つ）く。

昭和17年11月8日（日）

大詔奉載日。宇佐八幡へ、坊の健康にて発育し居る状態を御目につけ、感謝の意を表する御禮詣りをすることとなり、朝9時16分出発。余坊を抱き、ミワさんお握り（黄粉まぶし）、愛国パン、蒲鉾類、魔法瓶湯入れ等携帯。片道汽車賃70。一時間余を費やし到着。坊の健康成長を謝し、此の上ながら限りなき広大の御恵みを須（ま）ち、お上の御用に立ち得る様、御守護を祈りたり。2時迄一時間を剩す。中食は先年、貢氏等と食べたる辺りにて、今は運動場と化し居る処にて、過去を偲びつつパン四つ頂く。自動車午後1時発車に付き、時間の経済化を図りバスにて発つ。午後2時着。但し四日市乗換ふ。留守に巖来りし由。道子より葉書あり。返事出す。貢氏へは手紙認む。身体疲れ、睡魔襲い早く眠る。

昭和17年11月9日（月）

前日同様晴天なるも風強く、寒冷頓（とみ）に加わる。坊日向（ひなた）で遊ばす。3時母堂飯炊きの間、例の神社境内にて遊ばす。国債50円一、10円十一枚、区長代理持来す。売れ残りの処分を任せ来る。貯金切手も尚百枚余残留。之が捌きに一段の努力を要するに、更に国債の消化は容易ならず。柴町長来局。切手朝の払込みはミワさん、受領は余行く。此朝巖来たり。道子より返戻の20円を、余に一切を任せ来る。道子としても金が要る。返したくはなかったものなり。ブラザーミシンに調印を取りに店主来たり。三枚に対し各理由、及び住所氏名を記載し遣る。夜に入り久子来る。金谷に相手の男が来て、今日中に返事呉れと云ふ。子供は当分外に預かり貰ふこと、後には引取り差支えなしと云ふ。余は五日間の猶予

を求め置かしむ。販りに立寄らず。10時寝床。米二斗程、米屋持来る。

昭和17年11月10日（火）

夜来寒気強く、足慄（ふる）え安眠し得ず。此の間に坊の小用の為、数回起床。起きる間近になりて漸く暖まる。宵の間と朝方と二回、敷布団に漏らし、通路に面せる家主の垣根に乾かす。陽の廻りよければなり。森田さん早起き、妹氏深耶馬遠足。6時発車。仕度をさせて送り出すまでは、相当多忙を極めしものと察せらる。ミワさん5時前起き、火を起こして下さる。お蔭で生気を吹き返す。昨日より日中は余程暖かし。風なく快晴。寔（まこと）に遠足日和。五六年は深耶馬徒歩往復、三四羅漢寺、一人大貞公園。深耶馬組は6時頃帰宅。家族は心配し居れり。汽車に乗後れたものと評し合ひり。久子相手の男が昨夜宇佐に行き、今日面会したき由故来たりとて立寄る。悦子、淳にもパンをやる。戻り来たり、成行きを余に報告して去る。ミワさん瀬口の前まで行き、久子と語り居る。余、坊を抱き後を追ふ。陽射しを受けて、物置にて坊を遊ばす。炬燵す。

昭和17年11月11日（水）

前日より気温上がり、従って天気も幾らか雲多し。切手請求と共に資金請求、坊を負ふてミワさん行かる。午後夕飯前、神社に坊を遊ばす。銅の馬、先日より鉄銅回収の檄に応じたるらし。蒲鉾1円、林檎1円5銭、ゼリー菓子1円、蓮根1円。明日、福岡土産準備さる。朝は火を起こして下さる。夜、火種子を基礎に火を起こし、炬燵に入る。坊湯より販り、林檎汁を飲む。

昭和17年11月12日（木）

此日より22日（日）まで11日間記載なし。

昭和17年11月23日（月）

新嘗祭も9時頃ミワさん来宅。去る土曜日出発。巖木に寄らず唐津に直行。橋本氏宅に泊まり、日曜日、呼子及び浜崎に至り、此の朝4時起床。福吉を経、午前中当地着の見込みを以て急かしたる如し。飯食べ甘酒などやる。余、理髪に顔剃り。午前10時50分発に間に合わすべく急ぐ。10時20分出発。余電車に乗らず。ミワさんのみ乗車。発車、5分前着。ミワさん既に乗車し待って居る。空席あり。快晴。坊寝らず。中津行き列車は各駅毎に減員。下車の際は、坊はミワさんにやり、余荷物を持つ。午後3時着。夕食5時。途中行橋よりかしわ飯求め、坊に遣る。三分の一も食べず。残りを夕餉に出す。

昭和17年11月24日（火）

晴れ。不思議に腹加減悪し。午後4時頃再び入廁。下痢腹痛に堪えられず横臥す。ミワさん心配して蒲団掛けて呉れる。夫れでも夕飯は食べたい意思に駈らる。食欲を慎むことの容易ならぬを知る。夕食近く痛み歇む。パン等頂き、飯は食はざりし。切手類の請求、及び品物受取りにミワさん行きたり。

昭和17年11月25日（水）

曇り。朔風可なり強烈。冷氣甚だし。朝飯時、巖来たり。鯊（はぜ）の乾し物、五六十匁持来る。百匁5円と称す。久子が福岡行きの途中を自転車にて追求。10円捲き上

げ、汽車賃駅前局より借用せりとあり。何程貸せしや、それに付いての弁解を陳弁す。90円遣り居る云々。余沈黙。聞き終えて問ふ。久子の小遣い銭は、生計費より捻出を認め居るや。答えて謂ふ、然り。夫れなら儉約して、余剰を旅費やら土産物に費やすべく、極力捻出を期するに不思議はない。又夫れを咎むる権利は、お前にはない。然るに今聴けば、一文も持行かしめざりしと。夫れでは久子の憤慨も無理ならずと、寧ろ巖の出過ぎたる態度を難したり。一本参つたと云ふ。最後に10円送って遣らねばならぬかと尋ぬ。余不応。ラジオ修理に再び頼む。此の時は直に持行き見て貰ふ。飯って曰く、何処も悪くない。真空管の機能減退に付き更正せり。此の種の真空管は、売り物になしと云ふ。成程、大分明瞭に聞こゆ。今朝、坊や寢床から抜け出て脱糞。余の敷き布団に抱き、寝かし居りしものとす。毛布を汚す。洗って家主の塀に、道路沿いに掛け置く。寒風吹き荒ぶも、陽光の向きは可なり乾く。夕方近く曇り。

昭和17年11月26日（木）

昨夜、木炭少しあるを起こして、炬燵及び行火に入る。炬燵は明け方まで暖かなり。行火は気持が克く、新聞見つつ眠る。9時寢床。木炭、神様に行き一俵譲り下さる。2時過ぎ久垣博氏来局。余の本人に逢へたることも知らぬようなり。一時間近く話し行かる。切手請求及び受取りの外、資金請求と共に三度本局行き。昨夜、甘藷配給分を蒸して下さる。本朝火に焼きて食す。猶夕食にも頂く。給料渡る。本朝寒きも風風ぐ。坊や湯に行き、次いで神様に行く。飯りは眠る。

昭和17年11月27日（金）

4時前後より降雨。明け方歇みたるも、街路の掃除は中止せり。されば四五十分間、時の経過となりたり。ミワさんパン十五求め来られ、森田さんに五つやる。明日修学旅行に持行かるる為なり。年金獲得の為に竹屋の例に倣へ、子供の定期年金を角野氏より得るべく、幾度となく足を運ばる。風寒く炬燵を（行火）とる。但し日中は遠慮し夕方より用ゆ。夜8時頃、森田氏鮎巻を作り、甘藷団子を作り風味せしめらる。坊や此の団子を食す。9時余寝る前、小用せしめたるに、大便多く垂る。今日五六回やる。陽光時に姿を表すも、概して朔風烈しく、座敷の雨戸を締む。

昭和17年11月28日（土）

朝、多少降雨。街路は掃除し得る程度の潤湿なりし。正8時ベル鳴る。伊勢さん不来。余、代わって電報を受信す。坊や寢床にウンコす。着衣から洗ふ。昨夜の甘藷団子の祟りと覚えし。午後一回、坊を連れ日向ぼっこす。森田さん其の他に抱かれ、駅附近へ行きたる数あり。夕飯少食に止めしも、6時近く腹加減悪し。上廁五分間。此の朝、秋子さん熊本方面へ旅行。福岡を経、飯りは別府を経て、明午後9時半飯校の予定。今日は火を行火に入れ股火す。6時、坊湯に連れ行かる。飯りは眠って来る。林檎汁してやる。角野さん遂に年金定期五円がけに契約さる。これにて二件獲得す。国債及び債券ボーナス目当ての勧誘に乗り出さる。駅、合同等を巡らる。道子より手紙。世帯道具何もかもなしとて憤慨す。甚十郎、二郎の所為として居るも、其の品物は二束三文に古道具屋の手に渡るものと思せらる。憤るな働け主義こそ勝

利なれ。ミワさん等、甚十郎へ返金無用を唱へらる。時々陽射しあり。

昭和17年11月29日（日）

快晴。珍しき天気、家の中に居るは勿体ない位。ミワさん林檎一円瀬口より求め、南蒲鉾屋より天麩羅蒲鉾を求め、更に麵包を求め東奔西走の姿なり。夕餉はうどん頂く。向いの丸久より肉を求めて来らる。明日より売捌く旨、掲示しつ。此日知人に対しては売捌き、一般には売らぬを申告する者あり。警察より不都合を詰られ、主人公荐（しきり）に弁解したりとあり。夕食後、道子に返信認む。要旨は両氏を怨むべからず、寧ろ厄介な頼まれ物を暇だして片付けて呉れられた点に対し、感謝するを至当と思ふ。絶交すると云ふ如きは、広い世界を狭くすることとなり、心なき所業と謂はねばならぬ。以ての外の量見なり。借りたる金は今直ぐでなくも可なり。返さるる時機には返すこと肝要なり。精神的奉仕に対しては時の経過と共に遺忘し易きも、物質的のもの、就中（なかんずく）現金で世話したものは何日までも消滅しないものだからである。余の意見は斯くの通り。絶好問題を担ぎ出して貢に訴える如きは、焚き付けるに当たり、甚だ間違った量見と謂はねばならぬ。まあ憤らぬこと。品物は火事で焼けたと諦むること。憤れば毒素の為、自分で自分を傷つける結果となり、短命に終わること。概略この意味の手紙を発送せり。ミワさん8時頃、坊を寝かして事務室に来られ、其の手紙を表のポストに投函して頂く。夜9時、豊田校生徒の飯着を迎える為、父兄等駅に参ず。森田氏も秋ちゃんの為に、肉うどん造り待ち設け、迎えに出かけらる。余其の頃は寢床。坊やウンコ数あり。林檎汁や

る。余の卓子の位置を、小包保管棚近く移転す。掾（えん）伝いの風寒きを以てなり。電報の整理をやる。

昭和17年11月30日（月）

曇り。月末に月曜にて多忙。請求せず。保険料10円丈切手より立替え、払込みを了す。ミワさん保険勧誘やら取集やら多忙を極め、夜は湯に行きて、坊やを負うて常会に出席。森田さんも初めて参席さる。栄町局長臨局。貯金切手は婦人会員の手に売竭くしを委託に付き、窓口売捌き用の外、返戻方申付けらる。